

## 難波西鶴

## 海ノ道

【9】

森田 雅也

前回の人魚伝説に続き、西鶴作「武道伝来記」(貞享4(1687)年刊)巻二の四「命とらるる人魚の海」の話です。

松前藩の海岸を取り締まる奉行に中堂金内という人がいました。村々を警戒している

と、鯨川(未詳)という入り海で夕暮れ時となり、小舟に乗って帰路についたところ、浜から1里も行ったところで、白波がにわか立ち騒ぎ、5色の水玉がたぐさん飛び散り、波が2つに割れ、そこから「人魚」が現れました。

この光景。ウルトラマンか何かの怪獣登場のシーンとそっくりで

すね。いや、逆にここから取ったのかもしれないが。

いずれにせよ、船頭たちは驚いて気絶してしまいます。金内は果敢にも半弓(小型の弓)を取り出し、矢を放ちます。矢は人魚に当たった手応えがあり、そのまま、波間に消えていきます。

やがて高波も静まり、一同は岸に着きますが、金内は、その足で松前城に登城し、家老に職務報告とともにこの一件も話します。重臣誰もが金内の武勇と剛胆さに感心し、明日にも殿にこの手柄を申し上げ、お褒めの言葉を賜ろうとなりますが、どこにでもひねくれ者はいるものです。青崎百石衛門という

## 武家の悲劇は人魚のたたり？



「武道伝来記」巻二の四挿絵。「人魚」を射る金内。なぜか、半弓ではなく、鉄砲で射ている(関西学院大図書館所蔵)

部文学言語学教授)

(関西学院大学文学

御留守番役は「はっきり見たものでない限り、殿のお耳には入れない方がよい。魚にはヒレがあつてすばしいものだ。弓矢など当たるはずがない。それによる世に化け物や不思議話などないものだ。狼の頭は赤く、犬の足は4本に決まっています」と両高に非難しました。

の跡を追って死のうとしますが、親の敵を捨て置くのかと諭され、助太刀を得て、青崎百石衛門を見事打ち果たします。

重臣の中から、世の

す失意のうちに病死し

す。

中で不思議はいくらで

す矢意のうちに病死し

す。

の足は4本に決まると

す矢意のうちに病死し

す。

の足は4本に決まると

す矢意のうちに病死し

す。

の足は4本に決まると

す矢意のうちに病死し

す。

の足は4本に決まると

す矢意のうちに病死し

す。

の足は4本に決まると

す矢意のうちに病死し

す。

の足は4本に決まると

す矢意のうちに病死し

す。

の足は4本に決まると

す矢意のうちに病死し

す。

の足は4本に決まると

す矢意のうちに病死し

す。

の足は4本に決まると

す矢意のうちに病死し

す。

の足は4本に決まると

す矢意のうちに病死し

す。

## 「命とらるる人魚の海」